

# 白神通信

～秋田県側白神山地より

藤里森林生態系  
保全センター

令和2年7月22日

No.93

谷藤所長の四方山話

岳岱で歩道の落ち葉掃除

巡視活動について

白神山地の沢、巡視してきました

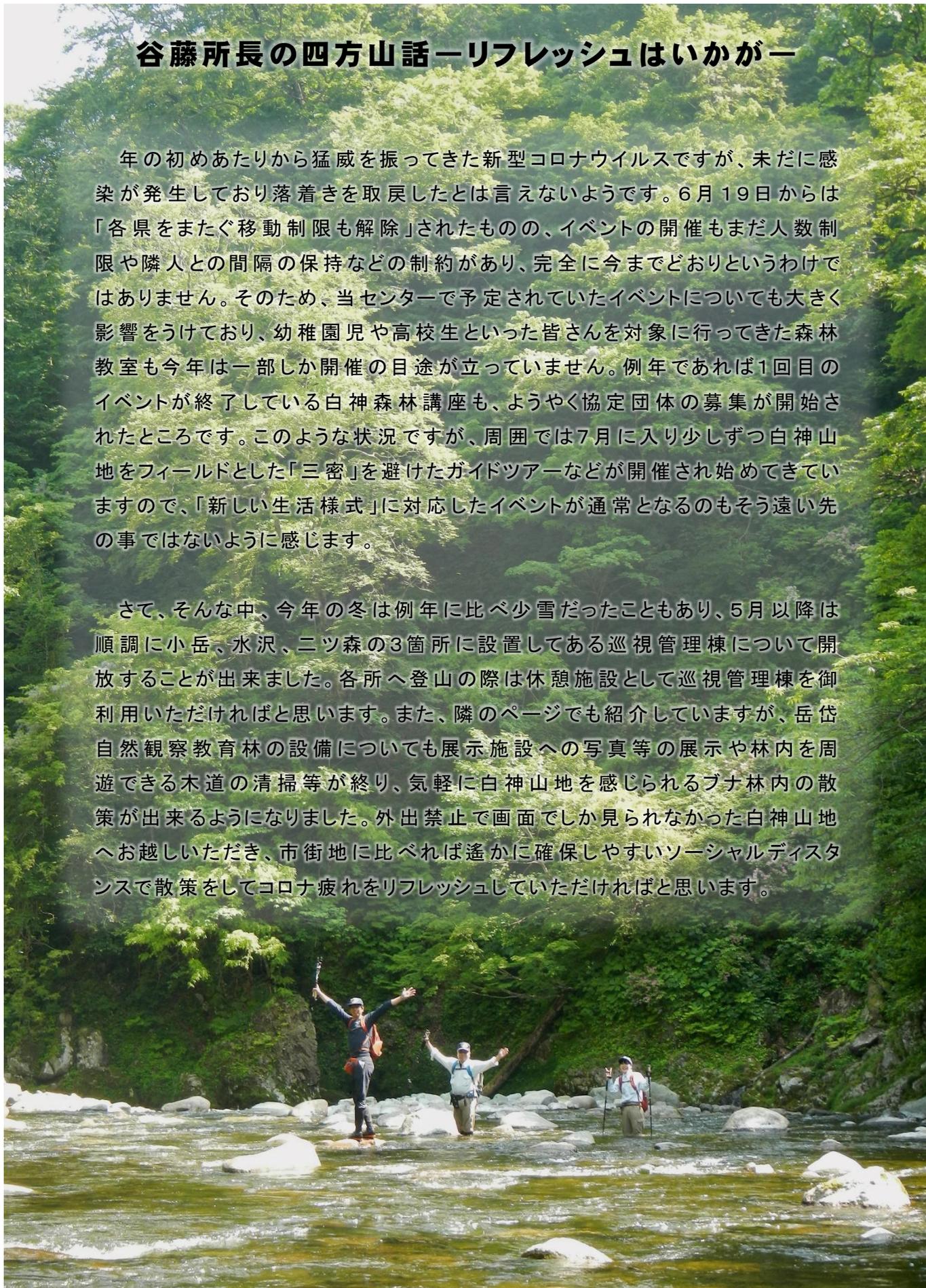
(粕毛川禁漁区の巡視)

小岳尾根、大きく撮ったら意外と毛深かったアカモノ (鈴木)

## 谷藤所長の四方山話ーリフレッシュはいかがー

年の初めあたりから猛威を振ってきた新型コロナウイルスですが、未だに感染が発生しており落ち着きを取戻したとは言えないようです。6月19日からは「各県をまたぐ移動制限も解除」されたものの、イベントの開催もまだ人数制限や隣人との間隔の保持などの制約があり、完全に今までどおりというわけではありません。そのため、当センターで予定されていたイベントについても大きく影響をうけており、幼稚園児や高校生といった皆さんを対象に行ってきた森林教室も今年是一部しか開催の目途が立っていません。例年であれば1回目のイベントが終了している白神森林講座も、ようやく協定団体の募集が開始されたところです。このような状況ですが、周囲では7月に入り少しずつ白神山地をフィールドとした「三密」を避けたガイドツアーなどが開催され始めてきますので、「新しい生活様式」に対応したイベントが通常となるのもそう遠い先の事ではないように感じます。

さて、そんな中、今年の冬は例年に比べ少雪だったこともあり、5月以降は順調に小岳、水沢、二ツ森の3箇所を設置してある巡視管理棟について開放することが出来ました。各所へ登山の際は休憩施設として巡視管理棟を御利用いただければと思います。また、隣のページでも紹介していますが、岳岱自然観察教育林の設備についても展示施設への写真等の展示や林内を周遊できる木道の清掃等が終り、気軽に白神山地を感じられるブナ林内の散策が出来るようになりました。外出禁止で画面でしか見られなかった白神山地へお越しいただき、市街地に比べれば遙かに確保しやすいソーシャルディスタンスで散策をしてコロナ疲れをリフレッシュしていただければと思います。





## 岳岱で歩道の落ち葉掃除をしました

岳岱<sup>だけだ</sup>自然観察教育林は、車椅子も走行できるウッドチップ舗装道に加え、木道、トイレなどが整備されていて、気軽に白神山地のブナ林を楽しめる人気のスポットです。

しかし5月の雪解け後に訪れると、落ち葉が歩道を覆い隠してしまっていました。できるかぎり自然のままにする方針ですが、湿った落ち葉がたまと滑りやすいだけでなく、ウッドチップと木道の劣化にもつながります。そこで6月9日(火)、職員総出で落ち葉掃除を行いました。



約12haのブナ林に設置された歩道は1.8kmほど。落ち葉を掃きながら進むには意外と骨の折れる距離です。一息ついて歩道脇に目をやるとユキザサが真っ白い花を咲かせていて、雪の結晶が暗い林内に散らばったよう。珍しくはありませんが、いつも身近に咲く花にこそ心を癒やされますね。さて、お昼を挟んで仕上げにとりかかり、汗だくになって終了です。最も印象的だったのがセンター所長の圧巻の竹箒さばきで、予定をはるかに超えるほど歩道はきれいになりました。

また、これからの来客シーズンに向けて、岳岱をはじめ小岳、藤里駒ヶ岳、ニツ森、七座山などにのぼり旗とマットを設置しました。「パトロール実施中」ののぼり旗と、靴底についた泥や種子を落としてもらうためのマットです。泥の中の種子や小さな生き物を知らず知らずのうちに持ち込まないように、ご協力をお願いします。(鈴木)



雪のような花と  
ササのような葉の  
ユキザサ



ツクバネソウの不思議な  
花も咲いていました



靴底の泥落としに  
ご協力をお願いします



## 粕毛川禁漁区の巡視

大淵を通過すると、40cmを超えるイワナが足元を走ることも。  
上流へ遡行するたびにスケールの大きな淵と瀬が交互に現れ、  
イワナ達にとって快適な生息空間が保全されています。



巨大なアミヒラタケを撮影する小林専門官。  
柔らかい幼菌は食べられるらしいのですが、  
私はまだ残念ながら幼菌に  
出会ったことがありません。



白神山地世界遺産地域の秋田県側  
を集水域とする米代川支流粕毛川。遺  
産地域内はもちろん全面禁漁ですが、遺  
産地域よりさらに下流、素波里ダムの流  
れ込み付近で合流する十文字沢までの  
区間も禁漁区です。6月4日(木)、当セ  
ンター全職員で十文字沢合流点～遺産  
地域の本流沿いを巡視してきました。

アミヒラタケに群がっていた体長5mm程の  
クロバチビオオキノコ。

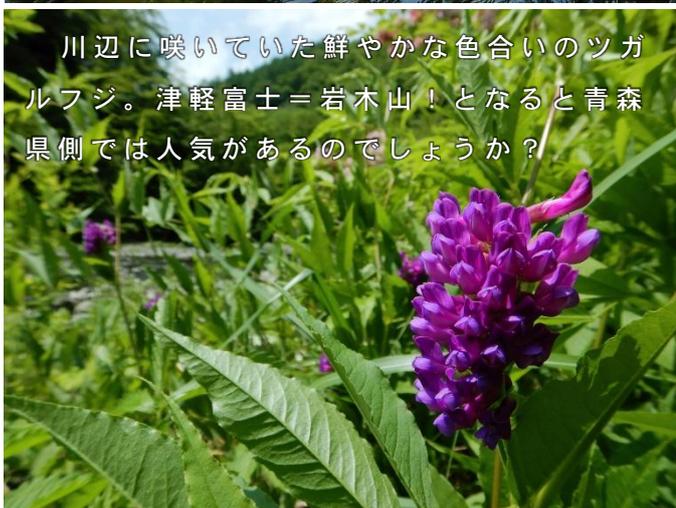


漢字表記は『黒羽ちび大茸』。  
ちびで大きなキノコムシ、という矛盾に  
満ちたネーミングがそそられます。

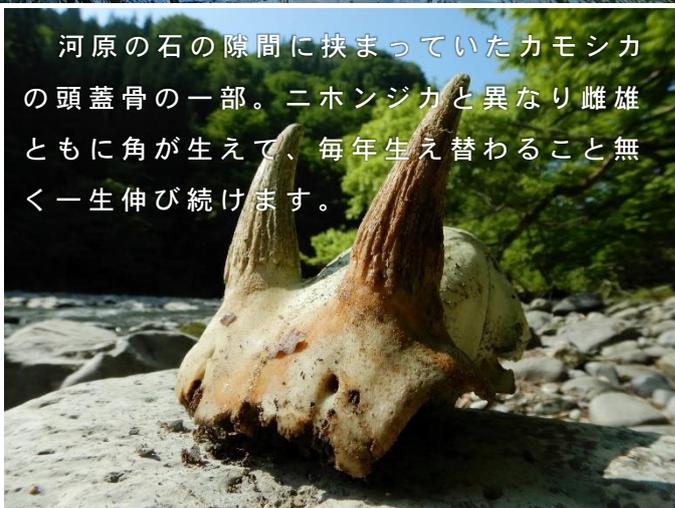


川沿いには森林鉄道の軌道跡や折れ曲がったレールなど、  
様々な林業遺構が散在しています。

先導する山内指導官がツキノワグマを見つけたため、念のため対岸に徒渉するところ。  
川沿いではヤマセミのペアも見られ、健全な森林生態系が保たれていることを実感します。



川辺に咲いていた鮮やかな色合いのツガ  
ルフジ。津軽富士＝岩木山！となると青森  
県側では人気があるのでしょうか？



河原の石の隙間に挟まっていたカモシカ  
の頭蓋骨の一部。ニホンジカと異なり雌雄  
ともに角が生えて、毎年生え替わること無  
く一生伸び続けます。

釣り糸や餌箱など密漁者の痕跡は無く、焚き火跡などのマナー違反も見受けられませんでした。これから源流釣りシーズン本番となるため、今後も機会を見て沢沿いのパトロールを継続していきます。(有本)



## 巡視活動について

5月26日(火)ニツ森の巡視管理棟冬囲い外しと同時に入山者へマナーの協力依頼のチラシ配りを行いました。



今年も道路の開通に合わせ、管理棟の整備・開放そして巡視活動を行っております。一時期と比べると入山者のマナーも良くなっていますが、まだまだ巡視員からの焚き火等の違反行為やゴミの投げ捨て等の報告が後を絶ちません。春や秋にはタケノコやキノコ狩りなど、登山以外の目的の方々も多く入山するため、特に力を入れて

ゴミの

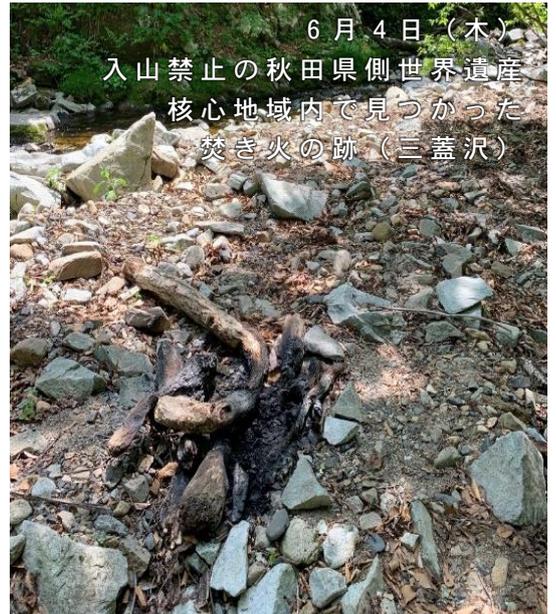
持ち帰り等声をかけていきたいと思っております。ご協力をお願いします。最後になりますが、この間初めて藤里駒ヶ

### オオルリ

夏のあいだ美しい声で鳴く  
日本三鳴鳥の一つ



岳の樺岱コースを歩きました。ブナ林や稜線そして山頂の景観や雰囲気などとても楽しい登山コースでおすすめです。(山内)



6月4日(木)  
入山禁止の秋田県側世界遺産  
核心地域内で見つけた  
焚き火の跡(三蓋沢)

### たなしろ 田苗代湿原



藤里駒ヶ岳黒石登山口から徒歩約10分。田苗代湿原では気軽に四季折々の花々を楽しめます。近年は湿原の乾燥化が進み、ツゲなど乾いた土地に育つ灌木等が増えてきていますが、湖⇒沼⇒湿原⇒草原と遷移していくのは自然の摂理、移り変わりも合わせ見守っていききたいものです。



キンコウカの金色に  
染まる田苗代湿原  
(R2.7.14)



タチギボウシ  
(8月頃)



アカバナ(8月頃)



エゾリンドウ  
(9月頃)



(発行)林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3

TEL:0185-79-1003 FAX:0185-79-1005

